

作成日：2006年7月1日

改訂日：2017年2月15日

安全データシート（SDS）

1. 化学品及び会社情報

製品名 セピロンコートQ 主剤 通年用

会社名 日新工業株式会社

住所 〒120-0025 東京都足立区千住東2丁目23番4号

担当部門 技術部

電話番号 048-755-6188 FAX 番号 048-755-6177

緊急連絡先 03-3882-2613 営業総務課

奨励用途及び使用上の制限 工業用（建築用防水材 等）

整理番号 NU-Q005

2. 危険有害性の要約

重要な兆候及び想定される非常事態の概要

最重要危険有害性： 繰り返し暴露されると感作性が成立し、気管支喘息に似た症状を起こすことがある。

有害性： 上部呼吸器、気管を刺激する。

物理的及び化学的危険性：

加熱すると引火しやすい液体。消防法危険物第4類第3石油類

特定の危険有害性： 情報なし。

分類の名称（分類基準は日本方式）：分類基準に該当しない。

GHS分類

急性毒性 経口	区分外	発がん性	区分外
急性毒性 吸入	区分4	標的臓器／全身毒性(単回暴露)	区分外
皮膚腐食性／刺激性	区分外	標的臓器／全身毒性(反復暴露)	区分外
眼損傷／眼刺激性	区分外	水生環境有害性(急性)	区分3
皮膚感作性	区分1	水生環境有害性(長期間)	区分3
呼吸器感作性	区分1		

※ 記載のないものは分類対象外または分類できない。

GHSラベル要素



注意喚起語：危険

危険有害性情報

- ・ 吸入すると有害
- ・ アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ
- ・ 吸入するとアレルギー、喘息、呼吸困難を起こすおそれ
- ・ 水生生物に有害
- ・ 長期的影響により水生生物に有害

注意書き

<安全対策>

- ・ 屋外または換気の良い場所でのみ使用すること
- ・ 保護手袋を着用すること
- ・ ミスト・蒸気等の吸入を避けること
- ・ 汚染された作業着は作業場から出さないこと
- ・ 換気が充分でない場合には呼吸用保護具を着用すること
- ・ 環境への放出を避けること

<救急措置>

- ・ 吸入した場合空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること
- ・ 皮膚についた場合、大量の水と石鹸で洗うこと
- ・ 皮膚刺激または発疹が生じた場合、医師の診断/手当を受けること
- ・ 汚染された衣服を脱ぎ、再使用する場合には洗濯すること
- ・ 呼吸が困難な場合には、空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること
- ・ 呼吸に関する症状が出た場合には医師に連絡すること
- ・ 気分が悪いときは医師に連絡すること

<保管>

- ・ 施錠して保管すること

<廃棄>

- ・ 内容物・容器は自治体の規則に従って廃棄すること

3. 組成及び成分情報

単一製品・混合物の区別

製品は混合物

化学名

NCO 基末端ウレタンプレポリマー

一般名

ウレタン防水材用の主剤

成分	含有量 (%)	化学式	官報公示整理番号 (化審法・安衛法)	CAS No.
ウレタンプレポリマー	95~97	—	(7)-820	—
脂肪族系溶剤	3~5	合成イソシアネート系炭化水素	(9)-1690	64742-48-9
トリレンジイソシアネート	0.2%未満	$\text{CH}_3\text{C}_6\text{H}_5(\text{NCO})_2$	(3)-2214	26471-62-5

4. 応急措置

吸入した場合：

- ・ 蒸気、ガス等を吸い込んで気分が悪くなった場合には、空気の清浄な場所で安静にし、直ちに、医師の診断を受ける。

皮膚に付着した場合：

- ・ 付着物を布にて素早く拭き取る。大量の水及び石鹼または皮膚用の洗剤を使用して十分に洗い落とす。溶剤、シンナーは使用しないこと。
- ・ 外観に変化が見られたり、痛みがある場合には、医師の診断を受ける。

目に入った場合：

- ・ 直ちに大量の清浄な流水で15分以上洗う。まぶたの裏まで完全に洗うこと。
- ・ 医師の診断を受けること。

飲み込んだ場合：

- ・ 誤って飲み込んだ場合には、安静にして医師の診断を受ける。嘔吐物は飲み込ませないこと。
- ・ 本人が自発的に吐くことが可能ならば吐き出させる。他人が無理に吐かせてはならない。

5. 火災時の措置

- 消火剤： 粉末消火器、炭酸ガス消火器、泡消火器が有効である。
- 特定の消火方法： 可燃性のものを周囲から、速やかに取り除くこと。
- 消火を行う物の保護： 燃焼あるいは高温により一酸化炭素、窒素酸化物などの有害ガスを発生するので消火作業には呼吸器用保護具を着用する。

6. 漏出時の措置

- 人体に対する注意事項： 作業の際には適切な保護具（ゴム又はプラスチック手袋、呼吸器用保護具、エプロン、ゴーグル等）を着用する。
- 環境に対する注意事項： 河川等へ排出され、環境へ影響を起こすことがないように注意する。
- 除去方法： 乾燥砂、土、その他の不燃性のものに吸収させて回収する。大量流出の際には、盛り土で囲って流出を防止する。流出物はスコップなどで密閉出来る容器に回収し、安全な場所に移す。
- 二次災害の防止策： 付着物、廃棄物などは、関係法規に基づいて処理をすること。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い：

- 技術的対策 換気の良い場所で取り扱う。容器はその都度密栓する。
- 注意事項 周囲での火気、スパーク、高温物の使用を禁止する。静電気対策のため、装置等は接地し、電気機器類は防爆型（安全増型）のものとする。

安全取扱い注意事項

- 皮膚、粘膜、又は着衣に触れたり、目に入らないように適切な保護具を着用する。
- 使用済みウエス、防水材かす等は廃棄するまで水につけておく。

保管：

適切な保管条件

- ・ 火気、熱源から遠ざけて保管。風通しの良いところに保管する。
- ・ 雨水や直射日光を避けるために防水シートで覆うこと。

安全な容器包装材料 石油缶など。

8. ばく露防止及び保護措置

設備対策： 屋内作業場での使用の場合は発生源の密閉化、または局所排気装置の設置を行う。取り扱い場所の近くに手洗い・洗眼装置を設け、その位置を表示する。

管理濃度及び許容濃度：

成 分	管理濃度	許容濃度	
		日本産業衛生学会(2005)	ACGIH(2005)
トリレンジイソシアネート	0.005ppm	0.005ppm, 0.035mg/m ³ 0.02ppm, 0.14mg/m ³ (最大許容濃度)	TWA 0.005ppm STEL 0.02ppm

保護具

呼吸器用の保護具	必要に応じて有機ガス用防毒マスクを使用。
手の保護具	耐油性（不浸透性ゴム）手袋。
目の保護具	側板付き普通眼鏡型又はゴーグル型保護眼鏡。
皮膚及び身体の保護具	静電気防止作業衣、安全靴。

9. 物理的及び化学的性質

物理的状态

形状： 透明粘稠液体。
色： 無色ないし淡黄色。
臭い： 微臭あり。

pH： データなし。

物理的状态が変化する特定の温度／温度範囲：

データなし。

融点： データなし。

沸点： データなし。

引火点： 131℃

発火点： データなし。

爆発特性： データなし。

蒸気圧： 3.3kPa(25℃、TDI)

蒸気密度： データなし。

比重： 1.03～1.05

溶解性 溶媒に対する溶解性 ケトン系、エステル系及び芳香族系等の溶剤に可溶。水に不溶。

オクタノール／水分配係数：

データなし。

分解温度： データなし。

10. 安定性及び反応性

- 化学的安定性： 窒素ガス等不活性ガスで置換された密栓容器内においては常温で比較的安定である。
- 反応性： 開放状態では、空気中の湿気と徐々に反応し、表面より固化する。
- 避けるべき材料： 水分、アルコール、アミン類。
- 危険有害な分解生成物： 燃焼あるいは高温により一酸化炭素、窒素酸化物などの有害ガスを発生する。

11. 有害性情報

- 急性毒性（経口）： 脂肪族系溶剤LD50 >20,000mg/kg
トリレンジイシアネート(0.2%未満)LD50 3,332mg/kg
上記より混合物として区分外に分類される。
- 急性毒性（吸入）： トリレンジイシアネート(0.2%未満)LC50 26ppm
上記より混合物として区分4に分類される。
- 皮膚腐食性／刺激性： トリレンジイシアネート(0.2%未満)；区分1A-1C
上記より混合物として区分外に分類される。
- 眼損傷／眼刺激性： トリレンジイシアネート(0.2%未満)；区分2A-2B
上記より混合物として区分外に分類される。
- 皮膚感作性： トリレンジイシアネート(0.2%未満)；区分1
上記より混合物として区分1に分類される。
- 呼吸器感作性： トリレンジイシアネート(0.2%未満)；区分1
上記より混合物として区分1に分類される。
- 変異原性： データ不足のため分類できない。
- 発がん性： 混合物として区分外に分類される。
- 生殖毒性： データ不足のため分類できない。
- 特定標的臓器／全身毒性－単回暴露：
トリレンジイシアネート(0.2%未満)；区分1（呼吸器、中枢神経系）
上記より混合物として区分外に分類される。
- 特定標的臓器／全身毒性－反復暴露：
トリレンジイシアネート(0.2%未満)；区分1（呼吸器）区分2（肝臓）
上記より混合物として区分外に分類される。
- 吸引性呼吸器有害性： データなし。

12. 環境影響情報

- 生態毒性：
- 水性環境有害性： トリレンジイシアネート(0.2%未満) 魚類 LD_{50} (96h) 0.153mg/L
上記より混合物として水性環境有害性(急性)は区分3に分類される。
また、蓄積性のデータより、水性環境有害性(長期間)は区分3に分類される。
- 残留性／分解性： トリレンジイシアネート(0.2%未満)；（BODによる分解度：0%）
- 生体蓄積性： トリレンジイシアネート(0.2%未満)； 生物蓄積性が低い $\log K_{ow}=3.74$

移動性： データなし。

13. 廃棄上の注意

廃樹脂、容器等の廃棄物は、許可を受けた産業廃棄物処理業者と委託契約をして処理を委託する。

容器、機器装置等を洗浄した溶剤等は、地面や排水溝へ流さないこと。

焼却等により発生した廃棄物についても、廃棄物の処理及び清掃に関する法律及び関係する法律に従って処理を行うか、処理を委託すること。

14. 輸送上の注意

国連分類： 該当なし

国連番号： 該当なし

国内規制： 陸上輸送：消防法：危険物第4類第3石油類（非水溶性）

容器：危険物の規制に関する規則

金属製容器（10L）

（注）容器は危険物の規制に関する技術上の基準の細目を定める告示第68

条の5に定める容器試験基準に適合していることを自主確認すること。

容器表示：一 危険物第4類第3石油類（非水溶性）

二 危険等級Ⅲ

三 火気厳禁

積載方法：運搬時の積み重ね高さは3m以下

輸送の特定の安全対策及び条件：

取り扱い及び保管上の注意の項の一般的注意に従う。

15. 適用法令

安衛法第57条の2第1項 トリレンジ イソシアネート

安衛法：特化則 該当なし

化学物質管理促進法 トリレンジ イソシアネート 第1種 政令番号298

消防法 危険物第4類第3石油類（非水溶性）

危険物船舶運送及び貯蔵規則 危告示 該当なし

16. その他の情報

主な引用文献

独立行政法人製品評価技術基盤機構（N I T E）ホームページGHS分類結果データベース
原料メーカーのMSDS

ウレタン原料工業会「ポリウレタン原料について－安全取扱いの手引き」（1987）

ウレタン原料工業会「TDI（トリレンジ イソシアネート）輸送管理指針（1989）

国際化学物質安全カード（I C S C）

製品安全データシートの作成指針（改訂版）日本規格協会（2001年10月）

日本工業規格 J I S Z 7253：2012GHSに基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法

危険物船舶運送及び貯蔵規則14訂版海文堂

- (1) このデータシートは、製品に関する情報提供を目的としたものであって、その記載内容に関し、弊社が売主その他の立場で保証責任を負うものではありません。
- (2) このデータシートは、作成日又は改訂日までに弊社が入手した情報に基づいて作成しておりますが、記載内容は新しい知見又は法規制の変更等により改訂されることがあります。
- (3) このデータシートは通常想定される保管方法および取扱い方法の範囲における情報提供です。したがって、特殊な保管又は取扱いを行う場合は、その保管又は取り扱いに適した安全対策を実施の上ご利用下さい。
- (4) 本製品の貴社の用途に対する法規制、適合性及び安全性については、弊社では確認しておりませんので、調査又は試験により確認の上ご使用下さい。
- (5) 貴社において本製品を輸出される場合には、外国為替及び外国貿易法等輸出関連法規を遵守の上、輸出してください。